

求める会ニューズ No. 956

市有研との作付会議、圃場見学報告

(参加者) 小浦、岡、岡部、小島、西、花岡、飛田、今田=求める会 8名
ひろめる会=2名

7月21日(土)午前9時、神戸学生青年センターに集合、小浦さん、岡部さんの車に分乗して出発した。後で調べたら、当日の最高気温は36℃。ちなみに丹波市の過去の7月の平均気温は最高31℃、最低23℃だそう。近年の気温がいかに異常なものであるかがわかる。

今回、いつもより多い8名が参加したのは、台風7号と梅雨前線による集中豪雨(西日本豪雨)が市島にもたらした被害を知りたいとの思いがあったからではないかと思う。

まず、一色さんの畑に案内されて驚いた。通常なら炎天下でも青々と茂っているはずのピーマン、万願寺トウガラシが全部立ち枯れしている。3、4日も水に浸かっていたのと、その後の猛暑で根腐れし枯れてしまったという。まだ緑が残っている株も枯れるのは時間の問題だと一色さんは言った。

昨年はイノシシにやられて全滅したカボチャ。今年は獣害もなく出来がいいと、収穫が待たれた、そのカボチャも水没し、半分以上が腐ってしまった。ナスは水に強いが、台風で傷がつき、その後の暑さで日焼けが起き、さらにテントウムシダマシが葉裏にびっしり卵を産んで、駆除に苦労しているそう。サトイモも雨の後の日照りで葉が赤くなり、元気がない。

別の畑では、ハウスでキュウリ、トマトが栽培されている。キュウリは台風で葉擦れが起きたうえに、ウリバエが飛び回っていた。ウリバエは葉にも実にもついて木を弱らせる。トマト、ミニトマトにはタバコ蛾の幼虫が木や実に入り、食害をもたらす。ハウス内にも

水が入った。トマトは水が入ると実が割れるし、外が暑すぎると花が実にならないという。ハウスの中は40℃にもなって、作業をしていると火傷のようになると一色さんは言う。

次に橋本さんの畑に回った。4年前の丹波豪雨では家の裏山から土砂が流入し、倉庫の農機、出荷前の玉ネギが土砂に埋まった。今回も土砂が流れてきた。前ほどの被害はなかったものの、保存していたジャガイモが水に浸かった。

畑にも土砂が流入した。4年前にも被害を受けた畑である。一色さんと同じく、ピーマン、万願寺トウガラシがやられた。ズッキーニの大きな株が泥に埋まって枯れていた。雨に弱く、その後の猛暑で腐ってしまったそう。畑一面、大きな株が腐って枯れている姿は痛々しい。カボチャも3畝とも腐っていた。

鶏舎にも水が入りぬかるんだため、3日かかって石灰をまき、なんとか整備したそう。

圃場見学の後、「ひなたぼっこカフェ」というログハウス風の店で昼食をいただき、秋冬野菜の作付会議。大谷さんが作っていた分がマイナスになったが、一色さん、橋本さんの分はあまり変わらないという。自然災害は予測できないが作付け表どおりにやっていきたいとのことだった。詳細は9月全体会の生産者担当の報告に譲る。

今回は見学できなかったが、高木さんの大豆畑にも水が入り、一部の種が流されてしまった。畑が乾いてから流された部分の種をまきなおすそうだが、収穫にどう影響するだろうか。

池野さんのところは、丹波豪雨のときに収

穫前の山裾の田んぼが大量の土砂に埋まり、修復は不可能に思われたが、4年かかって整備し、今年やっと収穫できると期待していた、その田んぼが再び土砂に埋まってしまった。「心が折れそうになった」と言われたあとで「もっとひどい被害を受けた人たちもいるから…」と気丈に付け加えられたそうである。本当に胸が痛む。

市島は4年前の丹波豪雨のあとも、獣除けの電気柵の修復が遅れて獣害がますます増え、台風被害、大雪によるハウス倒壊、病虫害に

よる被害、日照不足、反対に豪雨の後の日照りと、自然災害に悩まされ続けてきた。その結果、私たちに届けられる野菜が少なかったり、固かったり、虫食いが多かったり、黄色くなっていたりと、消費者側のクレームが多くなった。私も苦情を言ったことがあるが、今回、豪雨がもたらした被害の現場を目にして、私たちは「提携」の意味をもう一度思い起こす必要があるのではないかと思ったことである。

(亀井町G 今田 裕子)

食料環境セミナー報告

「福島から母子避難7年『避難の権利』と憲法～国連人権委員会で世界に伝えた母たちの願い

・子どもたちを被ばくから守って!～」

7月25日(水) 10:30~12:00

東日本大震災避難者の会 Thanks&Dream 代表

森松 明希子さん

(原発賠償関西訴訟原告団代表)

東日本大震災による原子力発電所の事故を経験するまでは、日本は技術先進国で安心・安全の国、原子力発電はクリーンで夢のエネルギーと教えられてきました。しかしこの事故は、今も地震で壊れたのか、津波による電源喪失か原因がわかっていません。

政府は、放射能がバラまかれたのに国民を守ろうとする意識が低く、信頼が見事に裏切られました。被ばくを避ける権利は国民平等にあります。郡山市からも何万人という避難者がありました。森松さんも2か月後、夫は福島に残り、母子3人で大阪市へ避難しました。

国際標準では自主避難者も「国内避難民」と呼ばれます。日本は2017年11月、国連で4か国から勧告を受けています。オーストラリア政府からは『自主避難民に生活援助や健康モニタリングを継続すること』、ポルトガル政府からは『国内難民に関する指導原則を周知させる』、ドイツ政府からは健康に関する勧告、メキシコ政府からは『福島原発事故被災者・核兵器被災者に対して医療サービスへのアクセスを保証すること』。

森松さんは2018年3月19日、第37回国連人権理事会で人権状況を世界の人へ伝えました。2

分間の持ち時間で演説した翻訳内容です。

「わたしは、2011年5月、福島の災害から逃れるために、2人の子どもを連れて避難しました。原発事故直後、放射能汚染は広がりました。

わたしたちには、情報は知らされず、無用な被ばくを重ねました。

空気、水、土壌がひどく汚染される中、わたしは、汚染した水を飲むしかなく、赤ん坊に母乳を与えてしまいました。

放射能から逃れ、健康を享受することは基本的原則です。日本の憲法は、『全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から逃れ平和のうちに生存する権利』と書かれています。しかし、日本政府は市民をまもるための施策は、ほとんど実施してきませんでした。

そのうえ、日本政府は、放射線量の高い地域への帰還政策にばかり力を注いでいます。日本政府は、国連人権理事会での勧告を、ただちに、完全に受け入れ、実施をしてください。

国連加盟国のみなさんの日本の人々の権利擁護のはたらきに感謝します。今後も福島、そして東日本の、特に、脆弱な子どもたちを、さらなる被ばくからまもることに力をかけてください。ありがとうございました。」

「グローバー勧告」と「国内避難民に関する指導原則」に対応する国内立法化成立を願います。森松さんは、被ばくを避けることが基本的人権であると認められ、被災者・避難者が参画して必要な施策が実施されることをめざして、これから活動を続けていきます。

(高砂G 藤原 栄子)

オーガニックフィルム&マルシェに参加して

2018・7・14

【千年の一滴 だし・しょうゆ】

随所に映し出される大自然。食材を丁寧に捉えた圧倒されんばかりの映像。そこに流れる音楽も美しい。普段の私たちが目にすることのない麹やカビ菌のマイクロ世界が大写しになる。凝縮された旨みのだしが出来上がるまでのスローモーションの映像、まさにドキュメンタリーならではの世界に引き込まれる100分だった。

「菌が生き生き働くと美味しいものが生まれる」「だしは自然に対する人々の叡智が凝縮している」という作者のことばが心に響く。

【SEED タネ】

各地で受け継がれてきた在来種のタネは、すでに94%も失われ、近代化と共に遺伝子組み換えのタネが突出してきた。種の多様性が守れない危機的状況にある今、私たちはタネと人との関係を見つめ直さねばならない。世界のタネを牛耳るモンサント社に各国では多くの人が「NO!」と抗議している。

【料理人 ガストン・アクリオ】

ペルーを代表するカリスマシェフ、ガストン・アクリオは「料理で国家を変えた」とまで言われている。彼のことをまったく知らなかった私にはインパクトの強いドキュメンタリーだった。

「国家を変える」って何？ 料理に携わるシェフが「国家を変える」の？ 美味しい料理は富める者たちだけのもの？ 貧しい子供たちが学べる料理学校って？ 本当に大切なものは何か？ ガストンは料理を通して人としての生き方を問い、弟子たちとともに常に「立ち止まって考える」。

(売布 G 児玉 主恵)

夏野菜のお料理・ちょっと1品・冬瓜のさっぱりサラダ

材料：冬瓜 1/10~1/8 個・人参 1/8 本・塩大匙 1

ドレッシング・作り置き甘酢小匙 2 *・レモン汁小匙 2・しょうゆ小匙 4・鰹節 3g

作り方 1、冬瓜は皮をむいてスプーンなどで種とワタをかきだし、薄切りにする。

2、塩をいれたたっぷりの熱湯に冬瓜、人参を入れ、ひと煮たちしたら火を止め、ザルに上げてゆで汁をきる。

3、流水で洗い、粗熱が取れたらしっかり水気を絞り、食べる直前まで冷やしておく。

4、ドレッシングのボウルに3を加えて混ぜ合わせ、さらにかつお節を加えてからめ、器に盛る。

*作り置き甘酢：酢 300ml・砂糖大匙 8・塩小匙 2

材料を全て小鍋に合わせ、一度煮立てて、砂糖が溶けたら火を止める。常温になるまで冷まし、保存瓶などに入れて冷蔵保存する。暑い夏は、この分量で。寒い冬は砂糖を大匙 10、塩小匙 1 にします。

(料理のプロが作る簡単レシピ・中島和代)

9月のカレンダー



- 9月12日(水) 部会
- 9月19日(水) 全体会
- 9月20日(木) 自動引き落とし日
共同購入申込締切日
- 9月26日(水) 食料環境セミナー

9月全体会議題

- ・あしの会との連携周知について
- ・収穫感謝祭の持ち方について
- ・「日本有機農業研究会の参加型保証制度(pgs)」の当会の取り組みについて
 - * 日本有機農業研究会 関西の集い (12/8 於: レギューム)
 - * 全国大会 (2019. 2/23~24 於: 滋賀県 あやはレークサイドホテル)

ワッサーの二回目はありません

小松さんから連絡があり、ワッサーの二回目の配送は中止になりました。連日、夕方になると雨が降り、腐りなどが出てしまったそうです。

せっかく楽しみに申し込んでいただいた方には申し訳ありませんが、ご了承ください。

「大人になって5つの健康的な習慣を続けている人は、10年以上長生きができる」と、英国大手日刊紙 The Guardian は報じている。その習慣とは、

- ・喫煙をしない
- ・健康的な体重を維持する
- ・1日に30分以上軽い運動をする
- ・果物、野菜および全粒穀物が豊富で、赤肉、飽和脂肪酸、および糖が少ない健康的な食事を摂る
- ・アルコールを飲みすぎない—週に14ユニット(100%エタノール140ml)未満
(稲田さんより配信の食品安全情報 blog よ

野菜係より

夏野菜を楽しみにしておられたと思いますが、7月の豪雨で市島の生産者は田畑に甚大な被害を受けられ、その後は猛暑の影響で野菜が少なくなっています。端境期も早まりそうです。そういう事情をご理解いただきますようお願いいたします。

枝豆収穫祭のお知らせ

9月30日(日)に高木さんの畑で枝豆の収穫祭があります。実施要領は次のとおりです。

場所: 市島町与戸

時間: 10時現地集合

参加費: 500円 (ご飯とみそ汁、お豆腐の昼食付き)

★今回は食事の後に日本熊森協会の熊の紙芝居をします。子供さんはもちろん大人も楽しめる紙芝居です。

参加を希望される方は池田(学習研究担当、090-6206-6240)までお問い合わせください。

食料環境セミナー

「ゲノム編集」



9月26日(水) 10:30~12:00

遺伝子組み換え食品いらない! キャンペーン 代表 天笠 啓祐さん
会場: 神戸学生青年センターホール
参加費: 600円

「ゲノム編集」とはゲノムDNAを切断する酵素を用いて、目的の遺伝子を壊して働かなくしたり、そこに別の遺伝子を加えたりすることによって、遺伝情報を高精度に改変できる技術で、2010年以降遺伝子治療や農畜産物の育種等、様々な分野での応用を目指して研究が急速に進められています。私たちがこれまで問題にしてきた「遺伝子組み換え」とはどう違うのか、可能性だけではなくリスクや安全性について、倫理的観点からの是非について聞いてみたいと思います。(セミナーらしより)